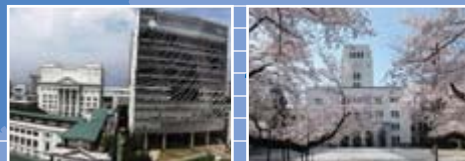




Tokyo Tech Philippines Office

Tokyo Institute of Technology inaugurates its branch office in the campus of DLSU-Manila, the Philippines on September 29, 2005. The office aims at extending the Tokyo Tech's activities to the Philippines and Southeast Asian region.



JAPAN
Tokyo Tech

PHILIPPINES
DLSU-Manila

フィリピンオフィス設立10周年に寄せて



国立大学法人 東京工業大学
理事・副学長（教育・国際担当）

丸山 俊夫
MARUYAMA Toshio

東工大とフィリピンの学術交流の歴史は長く、これまでJSPSやAUN/SEED-Net等の国際交流プロジェクトなど、様々なプロジェクトが行われてきました。そういったプロジェクトで培われたネットワークを礎として、タイに続く2つ目の海外オフィスとしてフィリピンオフィスが開設されたのは、2005年のことです。爾来、フィリピンオフィスは、ワークショップへの支援やデラサル大学および本学の学生派遣、同窓会支援など、研究から学生交流に至るまで幅広い活動への支援を行ってまいりました。大学が一丸となって国際化に邁進している今、10年間に及び様々な実績を積んできたフィリピンオフィスが、より全学的に活用されることを希望しています。

東工大フィリピンオフィス10周年への祝辞



デラサル大学
Executive Director
External Relations and
Internationalization Office
Office of the President

Alvin Culaba

オフィス設置10周年にあたり、デラサル大学一同、謹んで心からのお祝いを申し上げますとともに、東工大フィリピンオフィスご多幸をお祈りいたします。

JSPSによる「論文博士号取得希望者に対する支援事業（通称：RONPAKU）」をはじめとして、デラサル大学の多くの教員が東工大を訪れ、その結果として、デラサル大学と東工大の関係が強まりました。また、東工大フィリピンオフィスは、設立からの10年間で、学生交流においても成果を挙げました。例えば、両大学間の学生訪問や、専門的な遠隔講義を含む大学院生向けの勉学の機会提供などが挙げられます。

私たちは、東工大のパートナーとして選ばれたことを光榮に思います。そして、デラサル大学に設置されたフィリピンオフィスの継続的な成功のための支援を惜しまないことを約束します。

フィリピン拠点長からのご挨拶



国立大学法人 東京工業大学
大学院理工学研究科
国際開発工学専攻 教授
(2016年4月より環境・社会理
工学院 融合理工学系 教授)
フィリピン拠点長

日野出 洋文

HINODE Hirofumi

本学の2番目の海外オフィスとして、2005年9月デラサール大学内にフィリピンオフィスが開設されてから10周年を迎えられたことを大変うれしく思います。

初代フィリピン拠点長新山浩雄先生（現本学名誉教授）は、デラサール大学よりその業績を称えられて、2009年3月に“Signum Merit Metdal”を受賞されました。また、2代目拠点長を務められた大即信明先生（在任期間：2009年4月から2013年3月）は、「1999年から2015年のデラサール大学と本学の学生・教員間交流への貢献、フィリピン拠点長としての活動」を称えられて、2015年9月に“Plaque of Recognition”を受賞されております。

このお二人の受賞が示されるように、本学とデラサール大学との教員および学生交流は活発であり、その中核をフィリピンオフィスが担ってきております。

教職員の皆様にご協力いただきまして、今後これまでに以上に、人材育成・科学技術交流に邁進していく所存です。よろしくお願い致します。

東工大へのメッセージ



デラサール大学
Associate Vice Chancellor
for Facilities Management
Professor, Civil Engineering
Department
フィリピンオフィスマネージャー

Ronaldo Gallardo

東工大フィリピンオフィスが設立10周年を迎え、次の10年が始まろうとしていることを見てとても嬉しく、また誇りに思います。この10年間、様々なネットワーク形成活動、友情の強化、教員間の意見交換、学生やスタッフの交流、共同研究やコミュニティの支援・構築がありました。フィリピンでのオフィス設置によって、東工大はこのような活動の先駆者となり、アジアの国々への友情を示したのです。

私たちは、新しい技術革新やその応用、ワークショップやセミナー、幅広い機関との共同プロジェクトによる良好な協力関係、そして様々な組織との一層親密で強い絆を期待しています。またそれらが、より高度な教育と研究を探求する多くの学生や研究者、そして機関の刺激となることを望みます。

この度は10周年おめでとうございます。東工大のご盛運を祈って。

設立から現在までの歩み

-
- 2005年** ・本学2つ目の海外オフィスとしてフィリピンオフィスを設置
・新山浩雄名誉教授 初代フィリピン拠点長に就任
-
- 2006年** ・同窓会 Association of Tokyo Tech Alumni and Research Scholars (ATTARS) が発足
-
- 2009年** ・大即信明教授 二代目フィリピン拠点長に就任
・新山初代拠点長がSignum Meriti Medalを受賞する
-
- 2011年** ・Workshop on Computing: Theory and Practiceがはじまる
・本学130周年記念式典にデラサール大学学長、国際担当副学長が出席
-
- 2012年** ・デラサール大学100周年記念式典に大即二代目フィリピン拠点長が出席
-
- 2013年** ・日野出洋文教授 三代目フィリピン拠点長に就任
・Workshop on the Utilization of Waste Materialsがはじまる
-
- 2014年** ・フィリピンオフィスを活用した全学部学生対象 「フィリピン超短期派遣プログラム」開始
-
- 2015年** ・オフィス設立10周年
・大即二代目拠点長がPlaque of Recognitionを受賞する
-



新山名誉教授のSignum Meriti Medal受賞

初代フィリピン拠点長、新山浩雄名誉教授がデラサール大学よりSignum Meriti Medalを受賞しました。Signum Meriti Medalはデラサール大学が個人に授与する最高の賞で、ある特定の分野における卓越した経歴、或いは万民が認める傑出した功績に対して与えられます。新山名誉教授は21世紀に入って3人目の授賞者であり、その2人目は元英国首相トニー・ブレア氏です。



大即教授のPlaque of Recognition受賞

大即教授は二代目フィリピン拠点長を務め、拠点長の任期終了後の現在に至るまで、フィリピン拠点チーム構成員を務めています。今回、1999年～2015年のデラサール大学と本学の学生・教員間交流への貢献、フィリピン拠点長としての活動を称えての受賞です。本学でデラサール大学よりPlaque of Recognitionを受賞したのは大即教授がはじめてとなります。

東工大とフィリピンの交流の歴史

東京工業大学は1992年にデラサール大学（5月）、フィリピン大学（8月）とそれぞれ交流協定を締結し、教員および学生の交流、学術情報交流を行っています。これまでに、JSPS、AUN/SEED-Net等の国際交流プロジェクトを通して、共同実施機関であるフィリピン大学ディリマン校、デラサール大学の教員と、人的交流を含め様々な共同研究を行ってきました。

東京工業大学のフィリピンとの本格的な交流は、理工学国際交流センター（現学術国際情報センター）が1986年よりフィリピン大学ディリマン校を拠点大学、デラサール大学、フィリピン大学ロスバニョス校、ミンダナオ州立大学を協力大学として実施されたJSPS拠点大学交流事業にその端を発しています。交流分野は“理工学”としながらも、特に電子・通信工学、計算機応用、化学工学、材料工学、経営工学を研究課題として挙げ、これらの分野の学術交流に積極的に取り組みました。事業が終了する1998年までに、延べ158名の教員受け入れ、149名の教員派遣、4回の地域シンポジウムを行ってきました。同センターで並行して実施してきたインドネシア、タイとの学術交流に比べ、当時はフィリピン国内の大学に学位保有者が少なく、共同研究よりも学位取得への道筋を付けることに重きが置かれました。このため、拠点大学交流を足掛かりとして、JSPS論博プログラム、文部省国費奨学金、フィリピン政府奨学金、UNESCO化学・化学工学国際大学院研修講座などを利用した人材育成との連携に重点を置いて活動してきました。中でも特に交流が活発であった化学工学分野においては、7名が博士学位を取得し、拠点大学・協力大学の中心的な研究者となっています。

上記交流事業の終了後に、東京工業大学とフィリピン大学は、1999年から10年間のプロジェクトとして2期目となるJSPS拠点大学交流事業を行いました。ここでは環境工学、特に環境と調和したインフラ整備モデルの提案を目指して、数多くの長期研究者招聘、博士論文研究、研究者派遣等を通して、環境問題に関する様々な共同研究を行いました。本プロジェクトには、デラサール大学も主要協力大学として参加し、両大学からの招聘研究者は100名近くに及び、本プログラム参加者の多くが両大学はもとより、他大学でも多くの主要なポジションにつき活躍しています。

また、2001年のAUN/SEED-Netの開始以来、東京工業大学は、環境工学分野および化学工学分野における日本の支援大学の分野別調整大学として、環境工学分野のホスト大学であるフィリピン大学ディリマン校および化学工学分野のホスト大学であるデラサール大学と、プロジェクトの共同運営、共同研究、人的交流等様々な分野で交流を行い、両者間とは確固たる教育・研究交流基盤が形成されています。

これらの研究ネットワークによって、JST-JICA SATREPS「フィリピン国統合的沿岸生態系保全・適応管理プロジェクト」（2009-2013）、JSPSアジア研究教育拠点事業「アジアにおける都市水環境の保全・再生のための研究教育拠点」（2010-2014年）などの共同研究が継続的に実施されています。また、2013年11月にフィリピンを襲った台風ハイヤーンに関するJST J-RAPIDプログラムにおいても、ネットワークによる迅速な対応により東工大から2研究課題が採用となりました。なお、これらの交流の多くでフィリピンオフィスの支援が重要な役割を果たしています。

歴代フィリピン拠点チーム構成員（順不同）

- ・ 新山浩雄 名誉教授
- ・ 大即信明 教授（大学院理工学研究科 国際開発工学専攻）
- ・ 日野出洋文 教授（大学院理工学研究科 国際開発工学専攻）
- ・ 高田潤一 教授（大学院理工学研究科 国際開発工学専攻）
- ・ 竹村次朗 准教授（大学院理工学研究科 土木工学専攻）
- ・ 西崎真也 准教授（大学院情報理工学研究科 計算工学専攻）

活動のご紹介

1. Seminar-Workshop on the Utilization of Waste Materials

本ワークショップは、2013、2014、2015年の9月に3度開催され、2016年度も開催が予定されています。日本およびフィリピンの様々な分野の研究者が、21世紀のサステナビリティに関連して、相互に発表および議論をできる場を提供することを主旨としています。また、我が国とフィリピンの多くの大学や、民間企業の参加も歓迎しています。

本学とデラサール大学からの参加者が多いですが、九州大学、フィリピン大学（ディリマン校及びロスバニョス校）、フィリピン工科大学、Chiyoda Philippines Corporation、東洋建設株式会社、National Power Corporation（フィリピン電力公社）などからも参加があり、毎回、合計200名程度が参加しています。

内容としては、石炭灰の有効利用、ゼオライトの利用についての発表が過半数を占めていますが、面白いものでは豚の毛の利用などもあります。実用につながるものも多く、また研究テーマについてヒントを得ることもあります。

なお、本ワークショップ開催では、デラサール大学でAssociate Vice Chancellor for Facilities Management（施設担当副学長）を務める本学フィリピンオフィスマネージャー・Ronaldo Gallardo教授の協力により、デラサール大学の中心に位置するHenry Sy Sr. Hallが無償で提供されました。また、フィリピンオフィス秘書のMs. Ioulany Nayreは参加者のホテルやタクシーの手配を取り仕切り、当日は受付も務めました。

〈発表タイトルの一例〉

- Estimation of Initiation and Propagation Periods of RC Mixed With Seawater and Fly Ash Powder against Chloride Attack and Carbonation / Tomohiro Nagata, Nobuaki Otsuki, Takahiro Nishida, and Yi Cheng
- Changes in Microbial Consortium in Association with the Acclimation Stages of Fermentation Producing Methane from Glycerol / Juan E. Vasquez, Kiyohiko Nakasaki



パネルディスカッションのパネラー



発表時の様子



参加者の集合写真（2015年9月3日）

2. Workshop on Computing: Theory and Practice (WCTP)

本学フィリピンオフィスと、デラサール大学、フィリピン大学ディリマン校、大阪大学との四者の共催により、2011年より毎年開催しています。本ワークショップは、情報科学・情報工学に関する理論と実践の二つの側面をターゲットとし、共催する4大学の他、フィリピン・日本のさまざまな大学からの研究者が集まり、研究発表を通じて研究交流を行っています。

第1～4回はマニラ首都圏において開催しました。第3回からは、フィリピン内のさらに広い範囲からの参加者を期待して、フィリピン第2の都市であるセブにおいてサテライトワークショップを開催しました。サテライトワークショップの成功をうけて、2015年に開催された第5回は、フィリピン大学セブ校にて開催しました。2016年も引き続き、フィリピン大学セブ校にて開催を予定しています。フィリピンオフィスは、ワークショップ開催において、現地でのサポートの他、さまざまな情報提供や、フィリピン国内の大学との調整など、重要な役割を果たしてきました。

〈発表タイトルの一例〉

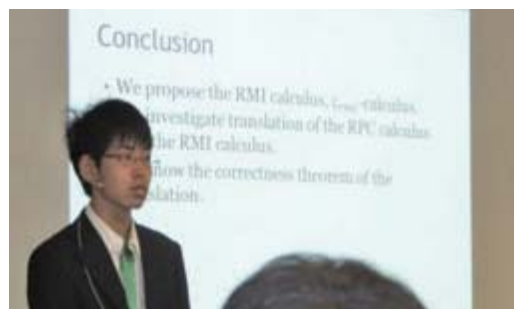
- An Object Calculus with Remote Message Invocation / Shohei Matsumoto, Shin-ya Nishizaki
- Sandal: A Modeling Language Supporting Exhaustive Fault-Injection / Masaya Suzuki and Takuo Watanabe
- Location-aware Simple Abstract Machine of Call-by-Name RPC Calculus / Keishi Watanabe, Shin-ya Nishizaki

〈WCTP2015のWebサイト〉

<http://www.ttop.ipu.titech.ac.jp/wctp2015>



前拠点長大即教授による開会の辞



本学学生による研究発表



WCTP2014サテライトワークショップ1日目終了後の集合写真

3. 留学説明会 (Tokyo Tech Seminar)

国際大学院プログラム (IGP)、YSEP、ACAP等、東工大で実施されている多くの国際プログラムについて広報し、フィリピンからの優秀な留学生を獲得するため、留学説明会を毎年実施しています。説明会は、主にデラサール大学とフィリピン大学ディリマン校の2か所で行っています。対象学生を限定しない国際プログラム全般の説明会を基本としていますが、分野を限定したIGP (例えば生命理工系) の説明会も開催しています。いずれの会でも東工大の概要、それぞれの国際プログラムの特徴、応募方法等について説明し、質問等を受け付け、さらに、東工大留学経験者や、現留学生による経験談も交え、東工大の魅力を伝えています。多数の学生の参加があり、説明後は多くの質問が寄せられます。学生にとっては直接東工大の教員に質問することが出来る機会であり、そのことがIGP等への応募へとつながっているようです。本説明会はフィリピンオフィススタッフの支援、デラサール大学やフィリピン大学ディリマン校の多くの東工大卒業生 (後述のATARSのメンバー) の協力のもと、実施されています。また、間接的ではあるものの、両大学で活躍する東工大の卒業生の姿が、最も大きな東工大のプロモーションとなっています。



フィリピン大学ディリマン校での説明会 (2015年9月23日)

4. フィリピン超短期派遣プログラム

東京工業大学は2012年に文部科学省によるグローバル人材育成推進事業に採択され、学部学生の国際化を目指した「グローバル理工人育成コース」を運営しています。このプログラムは、新興国を含む世界でリーダーシップを発揮できる人材を育成すべく、学士課程卒業後に大学院課程において国際水準の教育研究活動を行い得る、高度な能力を身に付けさせることを目的として学部設置されたコースで、「国際意識醸成プログラム」、「英語力・コミュニケーション力強化プログラム」、「科学技術を用いた国際協力実践プログラム」、「実践型海外派遣プログラム」の4つのプログラムにより構成されています。特に「実践型海外派遣プログラム」においては、自らの専門性を基礎として、海外での危機管理も含めて主体的に行動できる能力を修得することを目標としたもので、海外体験型の派遣プログラム、実践型の派遣プログラム、長期の留学プログラム等があります。その中でも入門編と位置付けられる超短期派遣プログラムは、主に初めて海外渡航を経験する学生を対象とした10日間のプログラムです。

フィリピンオフィスでは、2014年度よりデラサール大学の協力のもとに超短期派遣プログラムを実施しています。デラサール大学への訪問を始め、日系企業やJICAのプロジェクトサイトの見学、フィリピン文化の理解、現地学生との交流などを実施しています。他の超短期派遣プログラムに比べると、デラサール大学の学部学生と本学参加学生とが行動を共にする機会が公式行事・自由時間とも多く、学生からは非常に好評です。理工系学生はとかく欧米先進国だけに目が向きがちですが、向上心に燃え真剣に勉学に取り組む同世代の学生と交流することによって、新興国の「熱さ」を感じて開眼することができるのが本プログラムの最大の成果と言えるのではないでしょうか。



社会的企業、ユニカセレストランにて

5. 国際開発工学フィールドワーク

産業・経済・社会の国際化の進展に対応し、持続的な開発を可能にする工学・技術を構築するために、国際的なリーダーシップをとることができる人材を養成することが求められています。この要請に答えるために、国際開発工学フィールドワークは、1990年代から実施されてきた開発システムフィールドワークを引継ぎ、2010年より、デラサール大学を中心として実施されています。学生は、海外で同世代の学生といっしょに活動計画を立案したり、討論を行ったりすることにより、国際的協働を体験しています。参加した学生は、デラサール大学での英語コースの受講により英語力に磨きをかけるだけでなく、この協働により英語の重要性を痛感し、英語を学習する強い動機を得ています。また、海外で活動する日本企業を見学し、そこで活躍する日本人技術者の話を聞くことにより、国際的に働くやりがいや、難しさを学んでいます。



工場見学の様子



修了証を手にして喜ぶ学生

6. デラサール大学学生の東工大派遣

デラサール大学では、学生が日本の最新技術を見学することにより学業への強い動機を持てるよう、また日本の学生との交流を通じて外国人と協働できるような技術者となるため、さらには日本文化を知るために、2001年から毎年、学生と引率の教職員が日本および東京工業大学を訪れています。2015年には、39名の学生と4名の教職員が来日し、本学のスーパーコンピュータ（TSUBAME）、図書館、ものづくりセンターを見学するとともに、本学学生との交流会を開き、大学で行っていることや文化の違いについて討論を行っています。また、本学以外にも、日野自動車の工場見学、各種博物館や文化施設を訪問し見学を行っています。正規活動時間以外には、国際開発工学フィールドワークに参加した学生が中心となって、様々な娯楽施設を案内し、両者の国際的な交流を深めています。



TSUBAME見学



日本企業の見学

活動のご紹介

7. グローバルシステム開発研修

日本のIT産業においては、ソフトウェアの開発の一部を国外において行うオフショア開発が盛んに行われており、日本の開発チームと海外の開発チームとを率いるグローバル人材が求められています。この研修は、国際コミュニケーションに関する研修を行った後、日系IT企業において、現地ITエンジニアと本学学生とがともにOBLベースのIT研修を受けることにより、日本のIT産業が要請するグローバル人材の養成に取り組んでいます。



グループワークの様子

8. Association of Tokyo Tech Alumni and Research Scholars (ATTARS)

本学はこれまでさまざまな国出身の留学生を輩出してきており、フィリピンもそのうちの1国です。特に、フィリピンは今後の経済発展が大いに期待されており、親日の方も多いことから、卒業生と強い連携を図りつつ、国際的な、特にアジア地域での諸問題に対応していく必要があります。このような活動を遂行するにあたっては、卒業生間の連携が不可欠です。その意味で、2005年に発足した東京工業大学フィリピン同窓会 (Association of Tokyo Tech Alumni and Research Scholars : ATTARS) の存在は重要となっています。ATTARSでは、年に1度総会を開いており、本学の関係者も出席しています。また、EメールやFacebook等を通じてお互いの情報交換を行っています。本学の日本人卒業生がフィリピンに赴任した際は、現地の情報交換にも役立っているようです。さらに、日本とフィリピンの技術交流のために実施される講習会や講演会を開催する際は、ATTARSの情報ネットワークが大いに役立っており、100～200人規模の参加者に毎回集まっています。

〈入会資格〉

- 東工大で学部、修士、博士いずれか（もしくは複数）の学位を取得している方。
- JSPS、UNESCO、JICA等で短期間本学に滞在されている方。（詳細は下記のメールアドレスまでお問い合わせください。※英語のみ）

〈入会方法〉

入会を希望される方は、ATTARSのメールアドレス (attars.philippines@gmail.com) にご連絡いただき、入会フォームをお取り寄せください。記入後の入会フォームをATTARSにメール送信していただくと、その後ATTARSのMembership Committeeによる入会資格の審査が行われます。

〈ATTARS公式Webサイト〉

<http://attars-tokyotech.blogspot.jp/>



2010年のATTARS 総会



2014年のATTARS総会

フィリピンオフィスのご利用について

1. フィリピンオフィス基本情報

職員：マネージャー（デラサール大学教授）1名、事務スタッフ（常駐）1名
住所：Rm 510 Velasco Hall, DLSU-Manila, 2401 Taft Avenue, Manila, Philippines

2. フィリピンオフィスによる過去の支援の実績（主なもの）

(1) 学生派遣プログラム

- ① 国際開発工学フィールドワーク（例年9月実施：約15人×14日間）
- ② フィリピン超短期派遣プログラム（2015年9月実施：6人×10日間）
- ③ JAYSES2012（2012年8月実施：約40人×11日間）
- ④ 附属高校フィリピン研修プログラム（例年8月実施：約10人×7日間）
- ⑤ グローバルシステム開発研修（2015年8月実施：3人×14日間）

(2) ワークショップ

- ① Workshop on Computing: Theory and Practice（2011年～）
- ② Workshop on Utilization of Waste Materials（2013年～）

3. ご利用について

- ・フィリピンオフィスによるイベント・学生派遣プログラムへの支援を希望する場合は、まず事務担当（下記）までお問い合わせください。
- ・フィリピン拠点チームにて協議の上、対応可能な内容、支援について回答いたします。

4. 留意事項

オフィス繁忙期にはご希望の支援内容のうち一部の対応となる場合がございます。予めご了承ください。

5. 学内担当事務

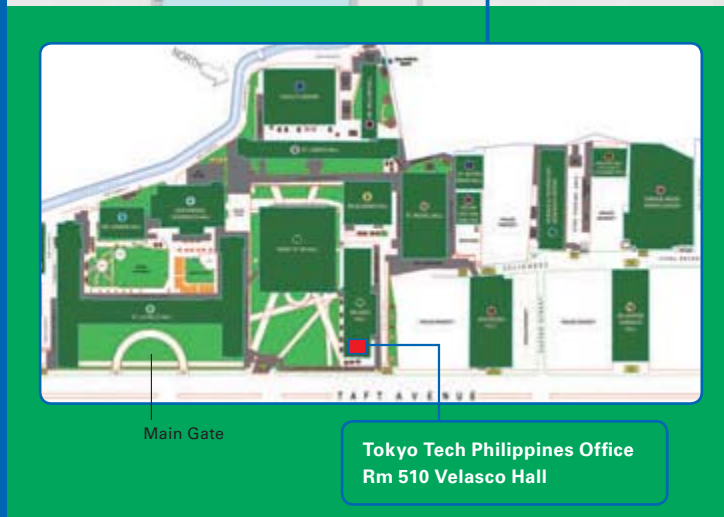
国際部国際事業課国際事業グループ E-mail:kokuji.jig@jim.titech.ac.jp
TEL: 03-5734-3827

フィリピンオフィススタッフからのメッセージ



Ms. Ioulany Nayre
(ニックネーム：Lan)

こんにちは！私は秘書のLanです。マニラのタフト通り沿いにあるデラサール大学内に、東工大フィリピンオフィスが設置された2005年から働いています。オフィスでの事務作業に加えて、教員の交流、ワークショップやセミナーなど、東工大が海外で行う活動の支援も行っています。東工大の先生や学生、スタッフがフィリピンオフィスを訪れるときは、皆さんがいついっしょに訪問を楽しめるように心がけています。フィリピンの学生や先生方が東工大を訪れる際も同様で、日本滞在が快適で思い出深いものになるようにしています。皆さんをお迎えするのはとても名誉なことでもあります。フィリピンオフィスでお会いしましょう。



Contact Address

Tokyo Tech Philippines Office
Rm 510 Velasco Hall, DLSU-Manila, 2401 Taft Avenue, Manila, Philippines
TEL & FAX : 63-2-521-1609

国際室海外拠点運営室 事務担当
国際部 国際事業課 国際事業グループ
TEL: 03-5734-3827 FAX: 03-5734-3685
E-mail: kokuji.jig@jim.titech.ac.jp